

—連載—



本別町の事例

「いいひと　いいまち　いきいき　ほんべつ」

温は氷点下二〇℃を下回る」

1. 本別町のプロフィール

十勝平野の東北部に位置する本別町は、面積の六〇%が山林に囲まれ緑豊かな地域である。

十勝晴れとも呼ばれる晴天日数が多い気候のもと広大な大地は、日照時間も長く、気温は夏は日中二〇℃前後まで上がり、冬は雪が少ないが気

ともある。

このような環境で、良質な豆類の生産を中心とした農畜産業が盛んな本別町は人口八、一二〇人（平成二十四年四月現在）で町名の由来は、アイヌ語の「ポンペツ」（小さい川という意味）を語源とし、本別市街地で利別川と合流する本別川から名づけられたと言われている。

あのマチ・地域おこし活躍中
このムラ

No67



また、明治四二年に鉄道が開通して以来、約一〇〇年の間地域交通として重要な役割を果たしてきた北海道ちほく高原鉄道「ふるさと銀河線」は平成一八年四月に廃線されたが、旧本別駅舎は道の駅「ステラ☆ほんべつ」として地域の拠点施設としての役割をはたしている。

鉄道は廃止となつたが、平成一五年には待望の北海道横断自動車道、池田 I.C. から本別・足寄間が開通し、更には本別・釧路間も着工するなど新たな流通の拠点として期待されている。

本別町の気候は内陸性気候で春は四月中旬から畑耕しが始まり、年間の降雨量が約一、

〇〇〇ミリメートルと雨・雪は北海道でも少ない地域となつていて。

農作物の生育期間は五月から一〇月、収穫は七月から十一月、晚秋から冬にかけては霜が降りて土が結氷する。このような自然環境で作られる農作物は、あずき・金時豆・大豆等豆類は、味は日本一といわれるほどの産地で、他にはジャガイモ・てん菜・秋まき小麦を主作物として長芋・大根・ゴボウなどの野菜類も栽培し、畜産業も盛んで、酪農では年間四四、〇〇〇トンの生乳を出荷しています、肉用牛も和牛など良質な肉を出荷し評価を頂いている。地場産品の加工を行う製糖工場や乳製品工場がある。

本別町が農業の盛んな町で

あるように農業就農者の為の大学がある。農業の担い手教育の中心的な役割を担つている北海道農業大学校は昭和二年に「北海道立農業講習所」として発足し六〇年に及ぶ歴史の中で四、〇〇〇名以上の卒業生が農業経営者として、また地域のリーダーとして活躍している。

※詳しくは今号の「シリーズ 手教の取り組み」第三回で紹介しています。

3. 豆のまち・スイーツのまち

肥沃な大地と恵まれた気候の中で育まれた豆は、良質・安全・安心な食材として全国に出荷されている。

収穫量も菜豆類では北海道でも有数の産地である。和菓子メーカーでは「本別産の豆」を名指で使用しているところも数多くある。

もともと豆の町として自負していたところ、平成一二年に手づくり豆腐・味噌などを手がける農家の母さんグループが集い「本別発・豆ではりきる母さんの会」を結成した。マスコミにもたびたび登場し、愛情を込めて育てられた自家製豆を使つた手作り製品で本別産の豆の美味しさをアピールしている。

軌道に乗せた豆腐・味噌のほか新製品づくりにも余念がなく、全国各地で開催される物産展にも出店し、特産品の販売や P.R. を積極的に行つている。

また菓子の材料となる小麦粉や乳製品などの原料産地であり町内のケーキショップ

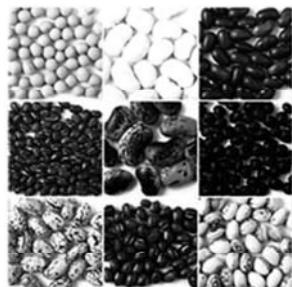
や菓子店では、それぞれこだわりをもつて菓子づくりに取組んでおり町内はもとより、町外の方など多くのお客様で賑わっている。

△十勝本別キレイマメ

貴方の綺麗、応援します「キレイマメ」は黒いダイヤ、大地から健康美人の贈り物・

「豆のまち・ほんべつ」で

は、本別産豆の付加価値化を図るため、本別町発祥の黒大豆「中生光黒」を使用した製品を本別ブランド「キレイマメ」として様々な商品を発表している。本別町内の生産者連携し「十勝本別キレイマメの会」を発足し、黒豆にこだわり美容と健康志向の強い女



性をターゲットに黒豆の健康イメージと豊富なポリフェノールに注目し商品開発している。

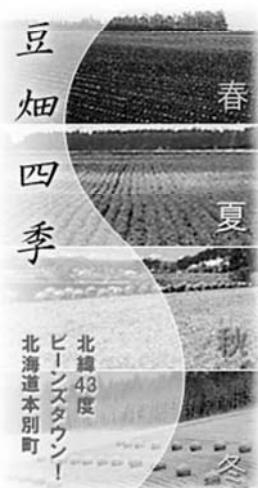
4. 協働のまちづくり

である。

もう一つは平成一二年の牛畜の伝染病「口蹄疫」の疑似患

畜の発症では、農業関係者のみならず一般町民も協力し、消毒、防疫作業等、延べ二、〇〇〇名以上が連日作業を行つた、その間の昼食、夕食

は町内の女性ボランティアの方々述べ五〇〇名が炊き出しを行い、町民一丸となり被害を最小限に食い止めたのです。



東の強い町」をつくりあげ、ボランティアで撤去したこと

本別町には「協働」の精神を一気に高めた二つの大きな経験がある。一つは平成一二年の大雨災害で、河川敷に堆積した土砂等を町建設業協会の全面的な協力と町民総出の会」を発足し、黒豆にこだわり美容と健康志向の強い女

ボランティアで撤去したこと

で」という意識の高さがボランティア活動の多さにも表れている。



協働 いきいきふれあい祭り

5・リサイクル率第一位に

自らのまちは、自らの努力で美しくするという精神はゴミの分別にも表れています。

限りある資源を大切に思う心から、町では一七種類の数多い分別に取組んでいる。町民一人ひとりの努力により平成一五年度に環境省の「一般廃棄物処理事業実態調査」で道内リサイクル率一位になつている。

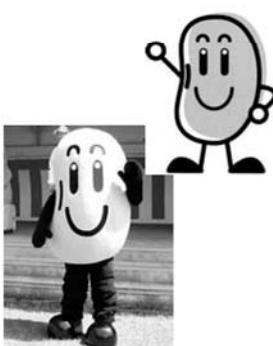
町民の「点」での活動を「線」から「面」にし、有機的に成長させていくことが必要であるということである。今では「町民手づくりの町民のための計画」を作り上げるなど「町民との協働」が本別町の一つの旗印となつている。

「町民ができる事は町民で」「地域ができる事は地域

6・福祉でまちづくり

福祉の取組みは、ひときわ全国から注目を集めています。高齢化対策は避けて通れない

行政課題であり、同時に解決を図るプロセスこそが、まちの将来を切り開いていくと考え、平成五年に高齢者の安否確認や日常生活支援を町民自らが担う「在宅福祉ネットワーク事業」がスタート、さらには認知症高齢者を地域全体で支えあう「もの忘れ散歩のできるまち」など住民が主体とならなければ効果を發揮しない施策を整備し、それが見事に機能しているところが本別町のすばらしさという評価を受けている。その後も町民の手づくりによる「健康長寿のまちづくり条例」が制定され、町民の目線で各種福祉施策が実施され「地域福祉計画」のモデル地区の指定を受け、メディアでも取り上げられている。



・マスコット・キャラフレーズ
二〇〇一年に開町一〇〇年記念事業の一環として、公募によりマスコットキャラクターとキャラフレーズを募集し、これからの町づくりのテーマを「いいひと いいまち いきいき ほんべつ」と決定、シンボルマークも躍動感にあふれ親しみやすく「豆」をモチーフにし、愛称も公募し、日本一の豆のまちにぴったりで、元気な本別にふさわしい「元気くん」として町の広報誌などに幅広く活用されている。

7. 町内見どころ・おすすめ



↓公園内のかぶと池 ↑上空から見た本別公園全景



本別公園内のエゾムラサキツツジ

ン工房、レストランなどがあり楽しい施設となつていて。

おすすめ

・ 義経の里 本別公園

・道の駅「ステラ☆ほんべつ」地域の拠点施設として「ふるさと銀河線」廃止後は簡易郵便局や観光案内、農産物・豆加工品・特産品の販売、パ

ツツジ（町花）やエゾヤマザクラなどの木々が春には咲きほこり園内を埋めつくす。またかぶと池・キャンプ場・ア

スレチック・パークゴルフ場
・テニスコートなど家族で楽しむことができる。

・ 本別義経の里 御所

・本別公園内にあるコテージタイプの宿泊施設である。平屋建ての中世書院造りの趣のある施設では調理用具なども完備していく自炊もできる。

・ 本別町歴史民俗資料館

・本別の地に最初に足を踏み入れた先住の人々の厳しい自然との闘い、大地を拓き本別発展の基礎となつた開拓者たちの足跡とフロンティア精神を伝えていく。

義経の里 伝説

道内各地に残つてゐる義経伝説は、大人のおとぎ話であり、途方もない冗談であるかも知れないが、そこには遙か

なロマンが感じられる。本別町には義経山や弁慶洞や義経神社があり数多くの伝説が伝わつてゐる。

・ 四季の催し・お祭り

春 芽吹きの春、目覚めの春
本別山渓つつじ祭り（五月）は、春の訪れとともに本別公園を会場に開催される。園内のエゾムラサキツツジ一六、〇〇〇株と二、〇〇〇本



ジャンボ鍋

のエゾヤマザクラが咲きほこる。会場は多くの出店や楽しいイベントが盛りだくさんである。



夏 まぶしい夏、緑広がる夏
本別町の夏はまぶしい空、緑広がる平野と気持ちよい風、本当に素晴らしい季節、七月下旬から様々な催しが続く。
・夜でかけナイト（六月・九月）— 商店街を中心に夏の

暑い夜を楽しもうと企画された催し、出店やフリー・マーケットなどで長い夜時間を忘れて楽しんじゃおう。
・スタッフエステイバル（七月）



・ひまわり迷路（八月）— 大なひまわり畑の迷路や、かわいい動物とのふれあい広場など子供たちは勿論大人も楽しめるイベントである。
・樽生ビア彩（七月）

秋 実りの秋、食欲の秋

秋の訪れは早い、本別町で一番大規模のお祭り「きらめきタウンフェステイバル」が九月に開催される。五、〇〇

〇発規模の花火大会、有名歌手を招いての歌謡ショー、さまざまなステージイベントが二日間にわたって行われる。本別町の美味しい秋の味覚がいっぱい、家族連れでもカッ



トである。

冬 銀世界の冬、心温まる冬
冬の素敵なお祭り「雪あかりナイト」（二月）、旧本別駅周辺を中心町民が思い思いに作り上げたアイスキャンドルを灯し幻想的な一夜を演じ出す。

一般社団法人北海道地域農業研究所
特別研究員 米田秀雄